



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「悔い改めよ。天の国は近づいた」

聖書 (マタイ福音書 4章 17節)

牧師 河合裕志

私達の教会はプロテスタント教会の流れに立つ教会なので例年、宗教改革記念日の10月31日を覚えて記念礼拝を守って来ている。それは1517年のその日にドイツ人のマルティン・ルター(1483年~1546年)がドイツの北部にあるヴィッテンブルクの城教会の扉に「95カ条の提題」を掲示した日でこれがきっかけで改革運動が始まった。

この提題の表題は「贖宥(しよくゆう)の効力を明らかにするための討論」というもの。この「贖宥」は元のラテン語でインドゥルゲンティア、「免罪符」と訳されたりする。当時のカトリック教会は聖ペテロ大聖堂を建てるために莫大な資金を必要とした。そこで考案されたのが有難いお札だった。この贖宥券(状)を購入すれば、罪を、罪の罰を免れるよ、煉獄で苦しむ魂も救われるよ、と言ってセールスに当る。民衆はきそってこれを買求めた。

この風景にルターは大きな疑問を抱いた。当時彼はヴィッテンブルク大学の聖書学の教授でありカトリック司祭だったが、勇気を奮い起こし、「提題」を掲げて公開討論を呼びかけた。その第1条にはこう記されている。「わたしたちの主であり師であるイエス・キリストが『悔い改めよ…』(マタイ4・17)と言われたとき、彼は信ずる者の全生涯が悔い改めで

あることを欲したもうたのである」。

これが95カ条の基調と言ってよいかも。とに角大事なことは主イエスの呼びかけに従って自ら罪を悔い改めることだよ。これを生涯にわたり日々なして行くことだよ。お金を出せばよい、そんな安易な考えに流されてはいけない。聖書にはそのようなことは書いていないよ…。

当時教会・ローマ教皇の権威は絶対であったのでルターの批判文書は許し難いものとなった。出頭を命じられ主張を引込めるように迫られる。しかしルターは「わが命とらばとれ」の覚悟で臨み、「聖書をもって私の誤りが明らかにされぬ限り自説を曲げる訳には行かない」とつっぱねる。こうして彼は破門されここに今一つの巨大なうねりが生じることに。新教、プロテスタント教会の誕生となって世界に広まって行った。宗教改革の三大原理は1. 聖書のみ、2. 信仰のみ、3. 万人祭司と言われる。何よりも聖書に聞くこと、キリストへの信仰によって罪の赦しが与えられること、そして全ての人には祭司のように神に仕える尊い仕事をしているんだ、ということ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時~7時